

物資や金銭ではない「心に寄り添う」支援の大切さ

住友三井オートサービス株式会社

能登半島地震被災地支援ボランティアの皆様

【パートナー団体: 認定 NPO 法人ピースウィンズ・ジャパン】

■活動の目的:

当社は、2024年1月に発災した能登半島地震への対応として、被災地への義援金や災害支援ファンド、中古 EV や軽トラックの寄贈など、金銭的・物質的な支援を実施してきました。

一方、半年を経過しても、被災地では多くの支援を必要とする状況が続いていることを受け、当社のマテリアリティ(重要課題)の一つに掲げる「地域社会との共生」を解決するための活動として、社員によるボランティア派遣プログラムを実施しました。

■活動を始めたきっかけ(活動開始 2024年7月):

本アワードへの応募者が個人として災害ボランティアに参加した際、現地の様々な困難な状況から復旧・復興が遅れている現状を目の当たりにしました。もっと大きな力になりたいと、社員ボランティアを会社に提案したのがきっかけです。取り組みを進めていくにあたり、一緒に活動出来る非営利団体を探したところ、認定 NPO 法人ピース・ウィンズ・ジャパン(PWJ)の活動理念と当社の考えが一致したこともあり、具体的な活動を開始しました。



■活動内容(ボランティア実数 36名):

PWJ の活動の中心である珠洲市において、下記の活動を実施しました。

●お茶会の準備～運営

避難所から移動し、仮設住宅での新たなコミュニティ形成の場として週に1度実施。住民同士で対話したり、ゲームや遊びに皆で取り組むなど、その場にいる方々のリクエストや気分に応じて主体的に行いました。

●仮設住宅入居者への支援



家電配布に関する周知活動及び配送、設置支援、広報チラシのポスティングや口頭での案内、家電の配布日に受け取りに来られた方への対応、自宅までの配送・設置や使用方法の説明、配布日に受け取りに来られなかった方への電話フォロー。

こうした家電配布に関わる業務では、回収した応募用紙の整理やデータのインプットなどの事務作業

も伴いました。PWJ 現地スタッフは限られた人員で日々、人道支援にあたっているため、普段オフィスワークをしている私たちだからこそ出来る「支援者の支援」として、得意分野を活かすことができました。

●能登復興祭などイベントの準備～運営

イベント会場に使われる場所の整備として、草刈りや剪定作業を実施しました。子どもたちが夏休みに入る時期と重なったため、親子向けイベントなどが盛りだくさんだった 7 月。打ち合わせから参加して、議論に加わったり、会場設営や当日の運営を実施しました。

●仮設住宅地・在宅避難者のご自宅への同行訪問

看護師と共に、独居高齢者を中心に健康状態や生活状況の確認に同行しました。

●車両のメンテナンス

街中で、パンクしたタイヤのまま走行している危険車両を発見し、その場でスペアタイヤへの交換作業や簡単な整備を実施しました。プログラムにはない咄嗟の判断で、日々の業務が直接の支援に繋がった場面でした。さらに、PWJ が利用している車両の点検等を実施し、稼働に支障をきたさない対応を実施しました。

今回の活動内容は、一般的な災害ボランティアに想像される、いわゆる”力仕事”とは異なり、人道支援に近い活動を行いました。特にご高齢の被災者と触れ合う機会が多くある中で、不慣れながらも、物資や金銭ではない「心に寄り添う」支援の大切さを学ぶ機会となりました。



■活動の成果:

社員ボランティアが被災地の状況を自分の目で確かめ、そこで生活をする被災者や支援者との対話を通じて、一人ひとりの「思い」に触れられたことが、最大の成果です。活動を終える頃には各自、「復興のために自分にできることは何か」と考え、中には個人による寄付や被災地で生産されている商品の購入といった行動に移す社員もいました。社内では SNS を活用した発信を行い、社員全員が社会課題に対して考えるきっかけを作ることができました。

第 10 回企業ボランティアアワード『特別賞』